

2024年 10月 エプロン産地情報



2024/10/3 株式会社エプロン

9月北海道エリア平均気温・合計降水量データ

産地	年	平均気温℃ (平年との差)	合計降水量mm (平年比)
岩見沢	2024	18.5(+1.1)	91(64%)
	2023	20.3	150
帯広	2024	18.7(+1.8)	34(24%)
	2023	20.1	156
北見	2024	16.9(+0.7)	60.5(54%)
	2023	18.9	172.5
美瑛	2024	15.9(+0.7)	71(55%)
	2023	18.1	150

※気象庁より参照

■北海道の天候について(9~10月)

9月の北海道の天候としては一時的に寒気の影響を受けた日もありましたが暖かい空気に覆われたため、気温は平年を上回りました。今後の気象庁の予報でも、10月も平年に比べ気温が高い見込みです。年々少しずつ夏が長くなり秋が短いような気候になりつつあります。



■産地情報【北海道産地】

北海道産玉ねぎ収穫終了、品質良好

●北海道産玉ねぎについて(出荷期間8月~翌春)

中生：L大中心で平年並みの収量・品質良好。晩生：L中心の見込み・品質良好。

エプロン北海道産玉ねぎの収穫が9月末頃にほぼ終了しました。例年は10月10日頃まで収穫が続きますが、今年の生育は早く進んだため、早めに切りあがりました。

晩生の収量については今のところ平年並みを見込んでいますが、気温が高く肥大前に倒伏した地域や、干ばつの影響を受けたことで中々肥大が進まなかった地域もあり、産地によって非常にばらつきがあり、平年以下の収量になる可能性もあります。

玉ねぎの品質としては、根切時に晴天が続いたこともあり昨年のような黒じみや日焼けはなくとても良好です。今後の作業は粗選別が完了した鉄コン原料を全て倉庫内に貯蔵する蔵入れ作業を10月中旬に予定しています。

●愛媛産玉ねぎについて(出荷期間4月末~8月末)

特に玉ねぎ供給が少なくなる6月から7月中旬にかけての安定供給が期待されている産地です。

エプロンを通して「おひさま玉ねぎ」を出荷している愛媛の玉ねぎの農園では現在順調に育苗中です。は種を9/6から開始し、9月から翌年2月までというロングスパンで育苗を行い、レクスター、ポルトといった様々な品種の順に育苗を行っています。玉ねぎの出荷期間は4月末から8月いっぱいまで計画されており、玉ねぎの出荷計画数は年間約5000トンですが、育苗ハウスの増設により今後10000トンの生産を目指しています。玉ねぎの出荷を強化するために選果施設を増設し、湿度対策のための大規模な風乾施設の準備も進めています。



北見産の玉ねぎ(9/12)



育苗中のたいよう農園の玉葱(9/12)

馬鈴薯全般は平年並み収量見込み、十勝のメイクインは小玉傾向

男爵芋を中心としたエプロン産地の馬鈴薯は選果中ですが、概ね平年並みの収量見込みです。

JA十勝池田町では馬鈴薯の収穫が8月から9月いっぱいにかけて行われ、馬鈴薯の選果作業が最盛期を迎えています。今年は十勝が干ばつの影響を強く受け、メイクインのMサイズの比率が例年より高く、収量も平年を下回る見込みです。インカのめざめの玉サイズも他の馬鈴薯同様に、M中心のやや小玉傾向。

音更町の大牧農場のホッカイコガネの収穫は8月下旬から始まり10月末まで続く予定です。生育状況としては大玉傾向で二次成長も見受けられますが、品質は良好で平年作見込みです。

また、元々の屋外風乾施設に加え今年は屋内の風乾施設を新しく増設し、より風乾に力を入れていることで、更なる品質向上を見込んでいます。



男爵芋の選果の様子(9/18)



大牧農場の屋内風乾施設

北海道産 南瓜収量・品質良好、10月から本格出荷開始

8月末から開始された収穫も10月の初めにはほぼ終了し風乾を経て全道的には10月上旬から出荷が本格化します。エプロン産地では心配されていた収穫時期の降雨は少なく、概ね良質な南瓜を収穫することができました。主に冬至向けの南瓜をメインに出荷する十勝地区のワカハラ農園(新得町)・得地農場(音更町)では豊作傾向で、平年以上の合計380tの出荷計画を見込んでおります。このため冬至に向けた出荷量の拡大を予定しています。今後の見通しとしては、今年は昨年よりも気温が低い傾向にあるため、後半にかけて出荷する分の南瓜を貯蔵しておく際の温度管理には注意をしていきます。



得地農場の南瓜風乾の様子

北海道産ブロッコリー残りひと月、一部産地では出荷量増加

全道的には寒気の影響を受け、気温の低下により各地のブロッコリーの生育が鈍くなっている中、音更町の得地農場では9月下旬よりブロッコリーの収穫量が増加しています。

今年は例年よりも除草に力を入れたことで、ブロッコリーに栄養がしっかり行きわたり、収穫量が予想以上に増えました。

気温が低いことから品質も良く、出荷時の氷詰めもしっかり行い品質の確保にも努めています。

得地農場では10月末まで約40万玉の出荷を予定しています。

他産地では富良野の匠ファームが10月中旬で出荷終了を予定しています。



得地農場ブロッコリー収穫(9/28)

